

環境まちづくり委員会 行政視察報告書

1. 実施日 令和6年10月4日（金）

2. 視察地及び視察テーマ

コダマコーポレーション株式会社 加工技術研究所・試作部
市内に立地する企業の取組みについて

3. 視察者

環境まちづくり委員会 委員長：高田和登
副委員長：山崎陽一
委員：富永訓正・秋山義徳・池澤敦・櫻沢裕人

4. 視察報告

視察日時	令和6年10月4日（金） 午後1時30分～午後3時
視察先	コダマコーポレーション株式会社 加工技術研究所・試作部 羽村市栄町 3-3-9 対応者 試作部 部長 森澤茂 氏 試作部 技術課&加工研究所 係長 中根啓介 氏
【コダマコーポレーション株式会社の概要】 ・設立年月日：1989年（平成元年）1月25日 ・本社所在地：横浜市都筑区茅ヶ崎中央 3-1 センター南 S K Yビル 4階 ・事業所：名古屋営業所（名古屋市千草区）、大阪営業所（大阪府吹田市） 試作部（東京都羽村市）、加工技術研究所（東京都羽村市） ・代表者：代表取締役社長 小玉博幸 ・資本金：6,300万円 ・従業員数：152名（2024年5月現在） CAD/CAM/CAE ビジネス 120名、試作ビジネス（加工技術研究所含む）32名 ・沿革 1989年 横浜市青葉区に設立 1996年 資本金 3,000万円、1998年 4,500万円、2000年 6,300万円に増資	

2001 年 試作部を開設し、試作サービス開始
2004 年 試作部を東京都羽村市に移転拡充
2009 年 加工技術研究所の開設
2011 年 試作部と加工技術研究所が ISO9001、JISQ 9100 の認証を取得
2012 年 加工技術研究所を羽村市に移転
2013 年 加工技術研究所と試作部の統合
2018 年 経済産業省から地域未来牽引企業に認定
2024 年 小玉博幸社長が「第 41 回優秀経営者顕彰」で「日刊工業新聞社賞」を受賞
2024 年 「健康経営優良法人 2024（中小規模法人部門）」に認定

・事業内容

CAD/CAM/CAE ビジネス

システムの販売、サポートサービス、コンサルテーション

CAD/CAM 関連ソフトウェアの開発と販売

試作ビジネス

金属および樹脂の高精度切削加工

5 軸・複合加工機と CAD/CAM の最適化の研究

人材育成と技術承継のコンサルテーション

【視察目的】

・経緯

令和 6 年 5 月 17 日（金）に一般社団法人 首都圏産業活性化協会主催で羽村市が協力した第 41 回はむらイブニングサロン「CAD/CAM は経営のツール」が、羽村市産業福祉センターで開催された。私（高田）はこれに出席し、第 2 部の工場見学にも参加し、社長などと名刺交換をした。たまたま、今年度の環境まちづくり委員会は羽村市内の事業所を行政視察することになり、交渉の結果、実現に至った。

・理由

5 月 17 日の講演会・工場見学で、コダマコーポレーション株式会社の加工技術研究所・試作部が他社に追随を許さない高度の試作技術を持つ企業であることがわかり、環境まちづくり委員会メンバーの知識の共有を図りたいと考えたためである。

・目的

羽村市内の成長企業を視察し、その原動力を他の羽村市内の企業に水平展開して、産業振興政策に活かしたいと考えたためである。これにより、羽村市内の産業が活性化し、多くの企業誘致を促進したいと考えたためである。

【視察概要（内容）】

・担当者からの説明の内容

会議室で森澤試作部長から会社および加工技術研究所・試作部の概要説明があった。

続いて、5軸マシニングセンタ、複合加工機などが設置されている工場を中根係長の案内で視察した。工場といってもほとんど無人である。人はプログラムをセットした後は居室に戻り、設計などの仕事に従事している。質疑応答も活発に行われた。

次に設計者の居室を視察した。1人で複数のCAD/CAM端末を操作している。理系ではない文系の社員も多くいるとのことで、意外であった。

最後に会議室に戻り、質疑応答があった。会議室の周辺に展示中の陳列サンプルについての詳しい説明を受けた。

・質疑応答

事前に送付した質問書に丁寧に文書で回答をいただいた。主な質疑応答を紹介する。

（問）横浜市に本社がある試作部・加工研究所を羽村市に設置した経緯と理由は。

（答）試作部は2001年に管理者が青梅市在住であった関係で青梅市に開設し、2004年羽村市に移転しました。2009年に横浜市都筑区折本町に加工技術研究所を設立し、2013年に羽村市に移転し試作部と統合して、現在の体制になりました。

（問）50個程度の部品を試作されていますが、「量産」は全くしないのでしょうか。

（答）量産対応はせず、試作加工に特化しています。切削加工品は50ヶが限度です。

（問）異なった材質の加工は高度の技術が必要では。

（答）対応するノウハウの仕組みが出来上がっているということです。

（問）CAD/CAMを一気通貫でやるとのことですが。

（答）これは弊社が販売しているTopSolidというCAD/CAMソフトの特性であることが最大の理由です。市販されている多くのソフトでは、幾つかのソフトを混在させて一つのプログラムを完成させますが、TopSolidではその必要がありません。

（問）社員の平均年齢は。

（答）技術課メンバーの平均年齢は35.4歳です。

（問）CAD/CAMエンジニアの育成方法は。

（答）新採用のメンバーは基本的には1年間の教育を受けます。幾つかのカテゴリーに分けて理解度確認の目的でテストを行います。クリアするまで何回でも受けます。

（問）試作品の納品先は多岐にわたっていますが、私たち市民生活とどういう関係にあるのかを説明願います。

（答）陳列サンプルで説明いたします。

（問）多種の加工設備や測定設備がある理由は。

（答）Q・C・Dの3拍子が揃ったサービスを提供する為に最低限の設備を保有しています。同業他社では倍程度の設備保有の企業もあります。

【所感】

- ・今回の視察目的、テーマに関して参考となった事項

- ①羽村市内に他者追従を許さない高度の試作技術を持つ企業が存在することにまずは驚いた。アルミ、ステンレス、チタン、耐熱材、スーパーエンブラなどあらゆる材質を自在に加工する技術は全国的に見ても稀有と思われる。羽村市内のものづくり工場では新製品開発の試作品作りに苦慮していると思われる。水平展開を図っていただきたいと思う。
- ②多くの工場経営者は設計と製造を分けて考えている。設計から製造まで、データの一気通貫による効率的な試作サービスの発想は斬新であった。羽村市内の工場経営者は発想の転換を図るべく、工場の視察を実施すべきと感じた

- ・羽村市の行政運営に活かせる事項

新入社員を1年間で一人前のCAD/CAMエンジニアに育てるとのことである。カテゴリーに分けて理解度確認の目的でテストを行い、クリアするまで何回でも受けさせる仕組みは重要な視点である。かなりしっかりしたテキストもあるとのことであるが、羽村市の行政運営にも活かしていただきたい事項である。

- ・視察を通しての所感

私は加工技術研究所・試作部の視察を2回させていただいた。1回ではよくわからなかった点が2回目で理解できた点が多々あり、大変、有意義であった。

ものづくりにおける加工技術についての理解が不十分だったが、5軸MC、複合加工機、3軸MCなどの用語も丁寧に説明いただき、十分とは言えないにしても、ある程度理解することができた。

人材育成についても良くできたテキストとテストの組み合わせで、モチベーションを高め、およそ1年間でCAD/CAMエンジニアを育成するなど、優れた仕組みが構築されており、感心した。企業秘密なのかもしれないが、羽村市内の他の企業にノウハウを提供していただきたいと思う。

添付資料（写真・資料等）



試作部・加工技術研究所
玄関前の集合写真
(事業所内は撮影禁止)



試作例の「ミツバチ」
どこも接合していない完全に
一体加工品（アルミ切削品）
(羽村市のウェブサイト・産業
祭のパネルから)



自動車用インペラの試作品
インペラとは、日本語に訳せ
ば、「羽根車」。材質はアルミ。
最終的には私たちが日常生活
で使用する製品に組み込まれ
ている。
(羽村市のウェブサイトから)